

■倉斗委員・山口委員から事前に頂戴した御意見について

議題「地域ごとの資産保有の最適化について」3月14日（水）に倉斗委員、3月15日（金）に山口委員へ説明し、御意見をいただきました。

1 議題「地域ごとの資産保有の最適化について」

（１）第２回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」の開催結果について

- 様々な意見があって大変興味深い。最終的には「サイン」で機能を表していかないといけない。
個々の施設で出来ることが分かる各機能の共通のサインや、どのような人が利用できるかわかるサインがあると良いと思う。例えば、「誰でもトイレ」のように、ここでは何が出来るかということがわかるようなサインだと良い。（山口委員）

（２）地域ごとの資産保有の最適化検討の進め方について

軸施設について

- 今の利用状況を把握するのはいいが、現状の利用者の活動などは従来の施設の使い方であるので、その方々の利用状況を調べることが、将来構想を作る中で有効なのか気になる。軸施設グループをつくることはよいが、例えば、オンライン会議を行うスペースなど、これから担うべき機能を整理できると画期的だと思う。（倉斗委員）

分析について

- 20～30代の利用者がどのようなシーンで使っているかを把握していった方がよい。大学院生の意見を聴くと、趣味のために公共施設をつかっていいとは思っていない。自助共助など、地域やコミュニティについて関心が高い学生もいるが、意外と活動場所がなかったり、料金が高くて使えないということもあるのかもしれない。そういう人たちが活動しやすくなるような公共施設があるといいかもしれない。（倉斗委員）
- 第２回のワークショップで出された意見の中で、麻生区では「来てもらえる公共施設」とあった。麻生区は地形による影響が大きい地域性があるので、分析を行う際は、地域特性に関する分析などにおいて、地形の影響に関する分析を含めた方が良いと思う。（山口委員）

（３）アンケート調査の結果について

- 結果は新しい発見があって他の自治体も参考になると思う。従来の公共施設では集会所のような集うことの手段としての機能があったが、今は個で入れるような場所を意外と皆が求めている。福祉の施設でラウンジをつくて、中高生が放課後に使えるようにした福祉法人がいた。スマホの充電やゲームができる、電源コンセントとW i - F i が使えればニーズは満たされる。デジタル環境の優先順位が高くなっており、快適なソファ等より、W i - F i が整っている方がよい。（倉斗委員）